



KAMEDAJIMA

「はにかむエブリデイ」 亀田の郷の縞だより

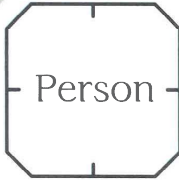
令和5年

003

「はにかむ」=しよしがり(はずかしがり)な亀田の人々、「ハニカム」=自然界に存在する丈夫で美しい亀の甲羅の構造。

強く優しい亀田縞と、この地にくらす人々をイメージしています

亀田縞利用促進協議会



Person

坂井涼子さん

坂井ファームクリエイティブ代表取締役



農作物直売所の活動で 人と地域が元気な未来へ

朝一番で農家の方々が採れたての野菜を持ってきて、日中はたくさんのお客でにぎわう。江南区嘉木にある、地域の農作物直売所「採彩」を運営するのが坂井さんだ。260年前から続く農家に生まれた坂井さんは、一時、東京で女優活動を行っていたが、指示されたダイエツトで体を壊したことから食と暮らしについて考え、農業者大学校に入学。年間約50万袋の小松菜を生産し、直売所を運営する父の事業を継いだ。

その後は「採彩」で、羊の放牧、畑の畝(うね)貸しによる農業体験、手作り総菜の販売など次々にアイデアを実現。農家が自信を持って育てた作物を適正価格で販売する直売所は、生活者が生産者を理解し、世代を越えて笑顔とふれあいが生まれる場所になっていった。

「農家の販路を確保する直売所に、こんな場所があったらいいな」という夢や、身近なお客様の要望を加えて、価格だけではない「楽しい場所」にしたいんです」

坂井さんをはじめ「採彩」のスタッフが身につけるのは、亀田縞のエプロン。店内での販売も行っている。坂井さんがこのエプロンに出会ったのは15年ほど前のこと。「他のエプロンは1年ほどで破けて、使えなくなったのですが、亀田縞のエプロンにしたら、とても丈夫で、5年から10年は持つんです。見た目も個性的で、ひと目で亀田縞とわかります。お客様に何度も聞かれたので、販売をすることにしました」

坂井さんは、上品な印象と時代に左右されない意匠が亀田縞の魅力と考える。地元の誇りとして、今後も店頭でPRしていきたいそうだ。

「生産者の数も減っていく今、生産者も顧客と考え、生活者と生産者の間でバランスをとっていきたい」と語る坂井さん。目指すのは地元の人たちがつながる直売所だ。そして、その先には、地域の魅力を伝え大きく成長する「採彩」の姿があり、たくさんの方々の雇用に貢献する未来が待っている。



従業員を雇い、法人化して行った小松菜栽培が現在の原点。羊には餌やりがで子どもたちに人気。記憶に残るひとときを楽しめる。



広々とした「採彩」の店内には地元の農家が丹精込めて作った野菜のほか、他地域の生産者の野菜、人気の総菜が並び。

カメラ子亀田の産業歴史を巡る

諏訪社に残る亀田織物隆盛の記憶



この一辺は織機関連がずらり。ジャンルが細かくて一つずつ眺めても楽しい。鳥居横には旧安田財閥の安田製釘所と森下仁丹株式会社創業の名が。おすすごいビッグネームin亀田諏訪社。鉄工業や薬品関連会社も連なりこの地の産業の力をみた感じ。



こんなには。亀田綿の広報カメラ子です。まだまだナビなしで目的地に行くのは不安な亀田初心者です。
ある日上司のひろし氏が言いました。
「亀田諏訪社の玉垣はもう見たの？」
「玉垣ってなんですか？」
「神社の境内を囲む石の柵だね。亀田の機械り業がいかに盛んだったか、その様子を窺えるよ」
「神社なんかどこにでもあるのに一体ナニ？」と訝しがりながら、JR亀田駅の南700メートルに位置する亀田諏訪社（新潟市江南区東本町4-4-22）を訪ねました。

鮮やかな朱色の鳥居、そこには「亀田町鎮守諏訪社」と刻まれた石柱が鎮座します。たしかにくるりと玉垣に囲まれ、よく見るとすべてに文字が刻んであります。
一つづつ見てゆくと、沼垂銀行や新潟貯蓄銀行：そんな銀行があったのか。菜や石鹸の会社もある：と、んんんん織物問屋、木綿問屋、西陣帯地商、呉服太物卸、餅（かすり）卸商など織物関連の商人が続々と登場。裏地、鼻緒、羽織紐などずいぶんニッチなジャンルまで連なっています。しかもよく見ると寄進者は東京、大阪、京都、遠州（静岡）、尾張（愛知）、久留米と、全国各地織物の卸問屋や商人がズラリと並んでいるのです。いったいなぜ亀田の神社に遥か遠方から石垣が寄せられているのか、なんかとつても謎？謎？謎？

さっそく上司のひろし氏に尋ねました。

はにかむ機屋だより

はたや

中営機業(有)

子どもと炊飯ジャーを両手に持って雪道を毎日通っていました

昭和53年の豪雪はすごかったけど、昔は毎年いっばい雪が降っていたよね。子どもが小さかった頃は事務所に二段ベッドを置いて子どもを昼寝させながら働いていたのよ。雪が降ると、朝自宅のある袋津から曙町の会社まで来ただけで一苦労。子供を一人はおぶって一人は手を引いて、もう片方の手には炊飯ジャーを持って、毎日雪道を歩いて通ったのを懐かしく思い出します。あの頃まだおばあちゃんも元気で一緒に働いていたわね。



中林 恵利子 さん

今月のイチ押し！
ちゃんちゃんこ

昭和レトロブームの今こそ着たい日本の冬の定番ちゃんちゃんこ。大人用と子ども用、それぞれ三柄を用意。雪ん子みたいでかわいいですよ。



中営機業(有) 新潟市江南区曙町 1-8-18 | TEL.025-381-5163

大正12年創業。縦織で織り進めるため丈の長い浴衣や着物なども得意。亀田綿の素材で優しい風合いを生かし、綿、ちぢみ、綿麻、ガーゼなどバリエーション豊富。

亀田綿の2軒の機屋のご主人へよもやまインタビュー。個性豊かな柄柄を生み出す2人の人柄にふれてみよう、というコーナーです。

今月のテーマ

大雪の思い出

立川織物

初めての屋根の雪下ろしでも子供たちは大喜びだったなあ

35年くらい前かな、豪雪の年があったよね。めずらしく降り積もって座敷の戸が開かなくなったものだから、慌てて初めて屋根の雪下ろしをしました。子どもたちは下ろした雪ですべり台を作って喜んでいましたね。昔は保育園が近くにあったからすぐに除雪が入ったのだけど今は保育園がなくなってなかなか除雪が入らないんだよ。一昨年のように大雪が降ると陸の孤島になってしまっただけで車が出せず買い物に行けず大変でした。



立川 秀秀さん

今月のイチ押し！
かっぱう着

家事仕事に大活躍のかっぱう着は冬の寒い朝にも大活躍。パジャマの上にさっと着てそのままゴミ出しに。セーターの上からゆったり着られるし、暖かいですよ。



立川織物 新潟市江南区袋津3丁目1-52 | TEL.025-381-3067

迷路のまち、袋津の一角にある明治17年創業の機屋。横織で織り進めるのが特徴で、通常の亀田綿より粗野感のあるための糸で織りあげる。スベック染を行う。

玉垣は古くは大正4年に寄進されたもので、当時の全国各地の木綿問屋など、亀田縞の取引先をあらわすと同時に、亀田の商人が他産地の織物も扱っていたことの証なのだとか。この頃は亀田縞がどんどん盛んに作られていく時期にあたり、亀田の町が全国的な販路と仕入先を持つ、織物産業の町として、非常に栄えていたことが見えてきます。その後、大正の終わりから昭和のはじめにかけて、亀田縞の生産量はピークを迎えるのですが、そんな時代の予感が見事に玉垣に宿っているように思えてきます。

何気ない街の風景のなかに、ひっそりとたえず亀田諏訪社。お祭りは露店でにぎわい、今も日々お参りする人が途切れない町の守り神。人々に親しまれるこの神社で見つけた産業の証ともいえる玉垣にそとふれると、忙しい織物問屋の商談や、そらばんの音が聞こえてくるような気がしました。



新潟市指定有形文化財
絵馬「三十六歌仙(上)」「頼光入山の図」「虎と松(右)」



三九の市(六斎市)にも 立ち寄ってみよう

亀田諏訪社の玉垣約350本を上げしげと観察した帰り道、参道の先で市に遭遇。そういえば、この日は市日でした！

三・九の市は亀田の発展にとって重要な催しです。江戸時代、この辺は中谷内新田と呼ばれた、稲作に向かない低湿地帯でしたが、交通の要衝で好立地だったため、六斎市の開設が認められて、元禄7年亀田の町ができました。その2年後の元禄9年には木綿織(のちの亀田縞)が誕生し、取引されるようになったといわれ、こんなのかな風景にも長い歴史を感じます。

今や生鮮品すらネットで買える時代になっただけで、会話しながら魚を捌いてもらったり知らない野菜の食べ方を教えてもらえるのは

市ならではの楽しさ。人と人の優しい距離感、リアルなコミュニケーションの大切さにつれて、次の世代に繋げたい文化だなあとしみじみ思うカメ子でした。



三・九の市は毎月3と9のつく日に開催している。

NEWS & INFO

新商品やイベントのお知らせ、プレゼントなど地域の情報を随時募集中！
内容の問合せはすべて亀田縞利用促進協議会広報部へ。

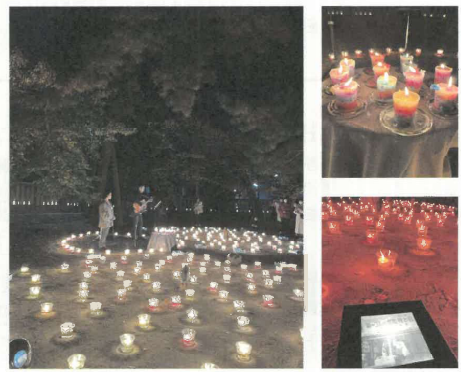
新潟工科専門学校学生が 袋津のまちづくりを提案

12月17日、新潟工科専門学校で「まちのたからとその活用」と題したフィールドワーク実習成果の発表会を開催。同校と東海工業専門学校金山校(名古屋市)、修成建設専門学校(大阪市)をZoomで繋いだ発表会では学生らしい斬新な提案が飛びだし、袋津の可能性がまた一つ増えた有意義な時間となった。



非日常の風景に包まれた 「亀田Art & Light 2022」

「織物の街」亀田の記憶を遺す亀田諏訪社で、第4回「亀田Art & Light 2022」が開催され多くの来場者を集めた(11月5日)。第4回目のテーマは「地域の記憶」。ワークショップ参加者が作ったキャンドルなど約800個の灯りに照らされた境内は幻想的な光景に満たされた。篠笛コンサートや、昭和の懐かしい亀田の風景写真が展示され、来場者を癒しの空間に誘っていた。



江南区民限定の 北方博物館・無料ウィーク開催

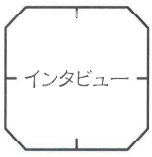
特色ある区づくり事業として、江南区が北方博物館でイベントを実施(10月29日～11月6日)。期間中、区民はチケット提示で無料入館できるほか様々な企画を開催。同館館長と遠藤麻理さんによる大広間トークショーでは、伊藤家や江南区の歴史の話に多くの方が耳を傾けた。また「伊藤家伝統・三人もちつき披露」や子どもたちの餅つき体験もあり、幅広い年代の人が地域の歴史に触れて文化の秋を満喫した。



「越後の綿織物と亀田縞」 講演会に会場は興味津々

12月7日、江南区郷土資料館にて新潟県立歴史博物館の専門研究員陳玲さんによる講演会が行われた。県内各地の綿織物の歴史から分布、用途、亀田縞の起源に迫る内容まで研究の成果を発表。亀田縞はまだ解明できていない事が多く時間が必要とのこと。ぜひ一緒に勉強しましょう、と満席の聴講者にも呼びかけた。





インタビュー

先覚に訊く。

亀田縞と同じく、永くこの地で活躍されている会社やお店の諸先輩を知るコーナーです。

郷土愛で地域の歴史を探求

北方文化博物館の館長を務める神田勝郎さん。かつての横越町議会議長でもあり、郷土史家として多数の著作も執筆するなど、多彩な活躍をされています。

少年時代は戦争の時代なのですね

家は自作農家で、政府への供出はありながらも、食べるものはありました。戦中は市内の親戚が三軒疎開してきて、一緒に暮らせたくらいです。父は新発田第16連隊の二員として大陸にわたり、シベリアへ抑留後に記録を残しており、私が本にまとめました。私自身もB29の墜落を目撃し、事件を本にまとめています。激動の少年時代でしたが、中学・高校では野球に打ち込み、投手をしていました。私の知らないところで在阪球団から誘いが来たこともあったらしいですね(笑)。

長く議員をされていましたが

村長だった父が勇退したので、地元の見解を伝えるために、と周りに勧められたんです。議員時代で記憶に残っているのは、亀田と横越の合併を検討したこと。そこに「ぜひ新潟市も一緒に」と当時の長谷川市長が言ってきた、1市2町の合併が進みました。現在の天皇陛下が皇太子の時代、御夫妻で横越を訪問され、御食事に同席したこともありました。



神田 勝郎さん
北方文化博物館館長
郷土史家

郷土史研究でも「活躍」と聞きします

横越という地名の由来をはじめ、日枝神社の忠魂碑を揮毫(きごう)した秋山好古と新潟の関わり、沢海がかつて相見と書かれる土地で、宮崎県にも同じ地名があり、越後の国・相見出身の仏師が活躍していたことなど、地元の見出しの仏師が活躍していたことなど、地元の見出しの調査研究を行い、著作は15冊以上になります。他の県に調査へ行くことも多く、先方の皆さんとの交流も生まれています。歴史を調べ、後世へのメッセージとなることで、郷土愛の育成をしていきたいですね。

地域の皆さんに伝えたいことは?

私は亀田縞のネクタイを愛用しています。江南区は大新潟市のへそ(中心)。おおいに発展の可能性があります。もともと横越島の一帯は文化拠点だったので。歴史を生かした区のPRを、これからもしていきたいですね。近年、亀田と横越は住民が増えています。歴史があり、交通の要衝である地の利を生かして、おおいに魅力を発信していってほしいと思います。



プライベート一問一答	Q2.好きな音楽は? 古関裕而、船村徹、吉田正あたり。枕元にCDセットを置いて聴いています。
Q1.最後の晚餐、なに食べたい? なによりも妻の手料理ですね。	
Q3.会ってみたい人は? 司馬遼太郎。最も尊敬する作家で、蔵書では一番多く持っています。八代目・伊藤文吉を「現代の陸奥丸」と評した。人を見る目があります。	

お気に入りの亀田縞

亀田織維工業協同組合のホームページでみなさんの亀田縞の作品を募集中。洋服、アクセサリやバッグなど。デザイナー、作家さんの作品から、街で買った、自分で作った、お気に入りの亀田縞を教えてください。昔の物でも今の物でもOK。ご応募お待ちしております!

■投稿はこちら
<https://kamedajima.net/showcase>

デザインに合わせてチョイスする 布の選び方にセンスが光る

洋服が趣味の菊込さんは亀田小学校の地域教育コーディネーターをされています。仕事柄、机上の教育だけでなく実際に亀田縞を着ているところを子どもたちに見せられたらと思ったのが洋服作りにハマったきっかけだったとか。亀田縞のよさは何度洗濯しても風合いが縮くところだそう。さあ、今回の洋服のPRをお願いします。「古き良きアメリカ映画の女優さんみたいなワンピースができました!サロペットは素朴さと令和の香りを両立させました。



菊込綾子さん(右)、ドレスのモデルは亀田小学校の教員政谷美有さん(左)。

はにかむ for the future 活動日記

指定都市小学校長会研究協議会新潟大会を開催 亀田縞ポーチが記念品に採用されました

東京都と全国20の政令指定都市小学校長会の代表者が新潟市に集まり、第76回指定都市小学校長会研究協議会新潟大会が開催されました(11月10日~11日 ANAクラウンプラザホテル新潟)。この大会では、昨年度、亀田縞利用促進協議会が小学生に呼びかけた「亀田縞の新品アイデア」から提案があった巾着ポーチが、参加者への記念品として採用されることとなりました。実際に触ってもらいながら全国に亀田縞をPRする貴重な機会をいただきました。地元小学生のアイデアから生まれた亀田縞グッズを、新潟大会の記念品に選んでくださった関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



江戸時代後期、当時日本最北の木綿栽培地だった新潟県の亀田郷で、腰まで泥につかる過酷な米作りを支えるため、丈夫で汚れに強く、しかも美しい縞柄の綿織物「亀田縞」が誕生しました。大正期にかけて全盛期を迎えた亀田縞は、時代の変遷で一度は途絶えましたが、消滅から半世紀を経て、現在も残る2軒の機屋により復活しました。従来の素朴であたたかい風合いと丈夫さに加え、特色である独特の肌ざわりよさ、現代生活になじむしなやかさを兼ね備えた布として注目されています。



提供: 亀田郷土地改良区 / 撮影: 本間善八氏

はにかむ 編集後記

今年の干支は卯年。子供の頃うさぎを飼いたくて親にねだったが一蹴された悲しい記憶がある。それはさておき、うさぎの代名詞と言えば、私的には「うさぎは寂しいと死んでしまう説」である。今の若者は知っているだろうか。平成の大ヒットドラマ「ひとつ屋根の下」で、ヒロイン小雪の名セリフ「うさぎって寂しいと死んじゃうんだから!」が起源とも言われているらしい。あれは良いドラマだった…(涙)。伝説の真偽はさておき、成長と飛躍に向かう卯年。本年も亀田縞をよろしく願います。(スタッフT)

亀田の郷の縞だより はにかむエブリデイ003

■発行: 亀田縞利用促進協議会 / 亀田織維工業協同組合
〒950-0134 新潟市江南区曙町3-6-1 TEL.025-381-4105 公式サイト <http://kamedajima.net/>
■初版発行: 2023年1月31日 ■企画編集: パクチャープラス 佐藤洋子 酒井祐介 石井達

Blogも更新中!

亀田縞通信はにかむエブリデイ
<https://kamedajimashimashima.jimdofree.com>

情報、投稿
ご意見はこちら

Instagram | @kamedajima_kamedajima Facebook | 亀田縞-kamedajima

